

広報 NASUKARASUYAMA

# 那須烏山

— No.93 —

2013  
June

6

Public Relations Magazine  
of Nasukarasuyama City

きれいな水を守る	2
県唯一の仮設住宅で閉所式	7
まちづくり団体支援事業報告	8
ねんりんピック実行委員会発足	9
公民館講座の合同開講式	10
夏の災害に備え「水難救助訓練」	11
山あげ祭の準備真最中	13
まちの話題	14
インフォメーション	16
八溝そば街道そばまつり	18

市イメージキャラクター



やまだん ここなす姫 からすまる



どろに苦戦(5月4日(土)、どろリンピック)

# きれいな水を守る

## —下水の適正処理と 河川水質の現状—

「きれいな水」を守り、子どもたちが安心して暮らしていくける環境を次の世代に引き継いでいくことは、私たちの大切な役割です。しかし、現実には、私たちの暮らしの中で発生する生活排水が、水を汚す大きな原因となっているのです。

市は、この生活雑排水を適正に処理するために平成21年度に策定した「生活排水処理構想」を踏まえ、本年3月には「下水道全体計画」を見直し、下水の適正処理に取り組んでいます。

また、毎年、公共用水域(河川)の水質調査を実施し、水質の変化を監視しています。

6月は環境月間です。今月号では、下水道全体計画や河川水質の現状をお知らせするとともに、「きれいな水」を守るために、私たちにできることは何かと一緒に考えてみましょう。

# 地域の実情に応じた下水処理

私たちは、毎日の暮らしの中で、炊事、入浴、洗濯、トイレなどで大量の水を使い、その汚れた水を川に流しています。

水は空気と共に、私たち人間をはじめあらゆる生物に欠かせない大切なものです。そのため、水の汚染は、身近で大きな環境問題といえるのです。

この環境問題を解決するために、重要な役割を果たすのが下水道です。下水道は、毎日大量に排出される污水を、下水道管を通して終末処理場に集め、さりげない安全な水に処理してから再び川へ戻す施設です。下水の処理方法には、下水道のほかに「農業集落排水」單

独・合併浄化槽」等があります。

下水道整備には、多くの時間と経費を要します。そのため、地域の実情に応じた対応が必要となってきます。本市では、烏山市街地と南那須市街地を中心とする地区では下水道、興野地区では農業集落排水、それ以外の地区では合併処理浄化槽で污水を処理していくこととしています。

## 公共下水道全体計画見直し

これまでの公共下水道全体計画は、2町合併前に、旧町がそれぞれ策定をしたものでした。その後、長引く景気の低

迷や少子高齢化の急速な進行など社会情勢が大きく変化したこともあり、全面的な見直しが必要となりました。また、公共下水道以外の汚水処理事業（農業集落排水合併処理浄化槽等）も対象とした汚水処理に関する総合的な計画である「那須烏山市生活排水処理構想」では、下水道の全体計画を縮小することとしています。

この構想や地域の現状などを踏まえ、今回の全体計画では、主に次の8項目を見直しました。

### ①全体計画の統合

2町合併に伴い、旧烏山町公共下水道（烏山中央処理区）と旧南那須町特定環境保全公共下水道（南那須処理区）を那須

烏山市公共下水道として統合し、基本的な考え方、事業計画等の統一を図りました。

### ②計画目標年次

栃木県が策定する「那珂川流域別下水道整備総合計画」との整合を図り、計画目標年次をこれまでの平成27年から平成38年に延ばしました。

### ③計画区域

生活排水処理構想を踏まえつつ、整備状況や住民要望等を総合的に考え、計画区域を設定しました。烏山中央処理区では、市街地周辺などを除外し260.0haから185.8haに縮小。南那須処理区では、南大和久を除外し大金の一部を追加するなどして、76.0haから63.8haに縮小しています。

### ④計画人口

生活排水処理構想との整合を図り、少子高齢化等を反映させ減少設定しました。

行政計画人口は、旧烏山町2万0000人と旧南那須町1万4800人の合計3万5800人から2万4400人。

計画処理人口は、烏山中央処理区

で90000人から4400人、南那須処理区で30600人から1400人としています。

### ⑤計画汚水量

見直した計画区域や人口、近年の給水実績等を踏まえ、下方修正しました。1日平均の計画汚水量を烏山中央処理区で4050m<sup>3</sup>から1607m<sup>3</sup>とし、

## ■下水道の水処理センター



上／南那須水処理センターの外観。  
下／烏山水処理センター内部の設備。



南那須処理区で2000m<sup>3</sup>から514m<sup>3</sup>とっています。

#### ⑥汚水管渠計画

見直した計画汚水量をもとに、未整備区域の幹線管渠計画を見直しました。

#### ⑦終末処理場計画

見直した計画汚水量をもとに、主要な未整備施設計画を見直しました。

#### ⑧財政計画

見直し後の未整備施設の概算事業費を算定し、年度別の整備計画を策定しました。

## 未整備区域でアンケート

下水道全体計画の見直しにあたり、現況を踏まえた将来予測に基づいて事業を進めるために、烏山市街地の一部（中央1丁目・2丁目・3丁目）で、下水道未整備区域の世帯主を対象にアンケート調査を実施しました。

調査結果では、高齢者単独世帯の割合が高い傾向にあることがわかりました。現在の生活雑排水の処理方法は、合併浄化槽が約3割で、残り7割は、トイレのみ単独浄化槽やくみ取りで処理し、他の排水は側溝等へ放流しているとといった状況でした。また、公共下水道の水環境における役割は理解され、約7割が整備を望んでいます。しかし、実際に接続可能な場合の接続希望は約4割にとどまり、整備を望んでいても接続困難とする回答が多く見られました（下グラフ参照）。

## 早期に下水道への接続を

下水道は、快適で衛生的な生活空間をつくるだけでなく、水路や河川などの水質保全のために無くてはならない施設です。下水道整備区域では、各家庭等の下水道への接続をお願いします。下水道法では、下水道が使えるようになった場合、速やかに接続するよう定められています。

本市の状況を見てみると、本年4月1日現在、烏山中央処理区では、整備済区域内人口3235人に対し、水洗化（下水道への接続）人口が1013人、水洗化率は31.3%となっています。一方、南那須処理区では、整備済区域内人口1626人に対し、水洗化人口1427人、水洗化率は87.8%です。

幹線管渠や終末処理場等を計画的に整備しても、各家庭等における下水道への接続が進まないと、污水の適正処理が進まないばかりでなく、下水道事業の効率的な運営にも影響を与えることになります。

## 下水道に接続すると こんなメリット

・トイレや蚊などの害虫が減ります。  
・ハエや蚊などの害虫が減ります。

・污水が高度な処理方法で効率的に淨化される。

## 合併浄化槽は 小さな下水道施設

合併浄化槽は、下水道に替わる快適な生活を支えるための小さな下水道施設として位置付けられ、全国的に設置が進んでいます。污水処理の中核となる下水道は、早急に整備が進まないため、小コストで機動的な污水処理を担う合併浄化槽は、市街地周辺部の污水処理設備として身近な存在となりつつあります。本市においても、下水道の計画区域以外では合併浄化槽の設置を推進し、公共下水道事業と連動して生活雑排水の浄化を図り、快適な生活環境

化できます。

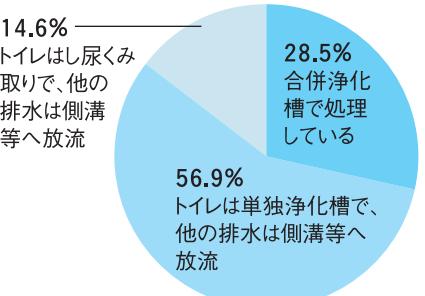
・各家庭等の浄化槽の維持管理（点検・検査・清掃・汚泥のくみ取りなど）が必要になります（浄化槽を使用している場合）。

## 浄化槽等の補助制度

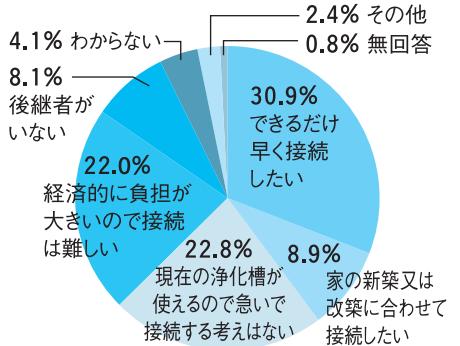
市では、快適な生活と美しい環境づくりのためには合併浄化槽の普及を推進し、設置に対する補助制度を実施しています。また、今年度から、水洗化率向上を目指し、下水道接続や合併浄化槽設置に伴う单独浄化槽撤去に対する補助制度を開始しました。いずれも、事前申請が必要ですので、詳しくは、上下水道課までお問い合わせください。

### ■アンケート調査結果より（中央1・2・3丁目）

#### Q. あなたの生活排水の処理方法は？



#### Q. 公共下水道に接続ができるようになった時、あなたの考え方は？



# 公共用水域23か所で水質調査

市では、毎年9月、公共用水域23か所でPH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質量)、DO(溶存酸素量)、大腸菌群数などの水質調査

を実施しています。昨年度は、大腸菌群数の季節による変化を見るために、1月にも調査を実施しました。

調査結果では、おおむね国の基準値

を満たしているものの、大腸菌群数は、ほとんどの調査地点で基準値を上まわりました。

項目ごとの調査結果は、上の表のとおりです。PH(※1)は、大半の河川で基準値の範囲内でしたが、小貝川最上流では、9・1と基準値を超えていました。

ここ数年、基準値を超えていることが橋上流で基準値を超えていました。この2か所は、烏山市街地を流れる河川で

## ■平成24年度公共用水域水質調査結果

調査地点等	P H	B O D	S S	D O	大腸菌群数		A S P T
					夏	冬	
(基準値等)	6.5以上 8.5以下	2 mg/l 以下	25mg/l 以下	7.5mg/l 以上	1,000MPN/100ml以下	10に近い ほど良好	
烏山地区	①那珂川最上流	8.0	1.6	3.0	8.3	2,700	1,700
	②中山川最下流	7.6	1.3	4.0	8.0	49,000	17,000
	③興野橋排水口	7.5	1.4	8.0	7.9	49,000	79,000
	④大沢川最下流	7.7	0.5	1.0	8.0	22,000	1,700
	⑤清水川最上流	8.0	1.8	4.0	7.8	330,000	110,000
	⑥清水川最下流	7.0	39.0	16.0	7.9	790,000	49,000
	⑦初音橋上流	6.9	5.8	1.0	7.3	79,000	170,000
	⑧江川最下流	7.6	1.4	4.0	8.0	22,000	33,000
	⑨那珂川最下流	7.7	1.1	1.0	8.1	13,000	1,300
	⑩荒川最下流	8.1	1.1	2.0	8.0	4,900	17,000
	⑪小木須川最下流	7.5	1.3	2.0	8.1	17,000	7,900
	⑫木須川最下流	7.7	0.9	1.0	8.2	11,000	4,900
南那須地区	⑬岩川最上流	7.3	1.3	2.0	8.1	220,000	17,000
	⑭岩川最下流	7.9	1.2	1.0	8.2	120,000	7,000
	⑮江川最上流	7.9	1.2	2.0	8.1	240,000	2,300
	⑯荒川最上流	7.7	1.0	1.0	8.1	220,000	1,300
	⑰大川最上流	8.0	1.6	5.0	8.1	9,300	1,300
	⑱大川最下流	7.5	1.1	1.0	8.0	220,000	1,700
	⑲長者川最下流	7.6	1.1	1.0	8.2	83,000	7,900
	⑳隅川最下流	7.4	0.7	1.0	8.0	490,000	49,000
	㉑逆川最下流	7.8	1.1	1.0	8.3	270,000	11,000
	㉒小貝川最上流	9.1	17.0	36.0	7.2	790	6,800
	㉓小貝川最下流	7.2	1.2	3.0	8.1	130,000	3,300
							8.7

## ■県内水系別環境基準適合状況

水系名	P H	B O D	S S	D O	(単位：%)	
					大腸菌群数	
那珂川	96.9	98.6	99.8	99.5	31.4	
鬼怒川・小貝川	98.5	94.7	99.6	99.2	19.2	
渡良瀬川	97.8	97.1	97.3	99.1	28.5	
計	97.8	96.7	98.8	99.3	26.1	

(平成24年度「栃木県環境白書」)

(※5) 大腸菌群数  
大腸菌及び大腸菌と性質が似ている細菌の総称で、し尿汚染の指標として使われている。数値が大きいほど汚染が進んでいる。

(※4) D O (溶存酸素量)

水中に溶けている分子状の酸素をいい、空気中から溶け込むほか、水中植物の光合成によって供給され、水中生物の呼吸や有機物の存在によって消費される。数値が低いほど水質が悪い。

(※3) S S (浮遊物質量)

水中の微生物が、酸素を取り込み、有機物を分解して気体にする時に必要な酸素の量。数値が大きいほど水は汚れている。

(※2) B O D (生物化学的酸素要求量)

(※1) P H (水素イオン濃度)  
水の酸性・アルカリ性を示す指標。0～14の数字で表され、P H 7が中性、数値が小さくなるほど酸性が強くなり、大きくなるほどアルカリ性が強い。

## きれいな水を守る



### 環境づくりは 一人ひとりの積み重ね

川上玲子さん(宮原)

障がい福祉サービス事業所「あすなろ」の廃食油せっけん「夢クリーン」は、学校給食や老人施設、家庭等から廃食油を提供してもらい作られたものです。原料が食用油なので、使用後には微生物により分解され、環境にやさしいのが特長です。水質汚濁対策の一環として、廃食油の活用が全国で展開されています。

このセッケンを自宅で使う川上玲子さん(宮原)に話を聞きました。

◇

20年ほど前にあすなろの廃食油せっけん作りを知り、廃食油を直接届けたことがきっかけで、このせっけんを使い始めました。環境にやさしく、汚れが良く落ちるため、洗濯や台所、お風呂洗いなどに毎日使っています。

自宅のすぐうしろには、那珂川が流れています。このすばらしい自然環境を子孫に残すためには、身近にできることから取り組んでいくことが必要ではないでしょうか。台所では、なるべく油を流さないように心掛けるなど、一人ひとりの積み重ねが大切です。

これからも、那須烏山市のすばらしい環境を皆さんとともに大切に守っていきたいです。



毎年実施している水質調査。

大腸菌群数<sup>(※5)</sup>は、夏季・冬季ともにほぼすべての河川で基準値を超えていました。特に市街地に近い清水川最上流・清水川最下流・初音橋上流等では高い数値となつており、生活雑排水が影響していると考えられます。

しかし、このように大腸菌群数が高い数値を示すのは、本市に限ったことではなく、全国で同じような傾向になります。県内を水系別に見てみると、那珂川水系は、鬼怒川・小貝川水系や渡良瀬川水系より、若干、良い結果となっています(5ページ下表)。

あり、生活雑排水が影響していると考えられます。小貝川最上流でも、ほぼ毎年、基準値を超えていました。SS<sup>(※3)</sup>は、大半の河川で基準値以下となつてますが、小貝川最上流の

み基準値を超えており、次回の調査結果に注目する必要があります。

DO<sup>(※4)</sup>は、初音橋上流と小貝川最上流で基準値を満たせませんでした。

清水川最下流は、近年、改善傾向にあります。

なお、この調査では、水生生物による水質判定値(A S P T)も実施しており、すべての河川で、「水生生物が生息できる環境」という結果でした。

自然環境は、一度失つてしまふと簡単に取り戻すことができません。多くの天然アユが遡上する那珂川や荒川などのほか、中小河川が貫流する本市では、これらの清流をいつまでも守り続けることが大きな課題です。

そのためには、下水の適正処理はもちろんのこと、「水を汚さない」ことを意識して、毎日の生活を送ることが必要ではないでしょうか。このようにして守り続けたすばらしい自然環境は、私たちの生活に豊かさを感じさせてくれることでしょう。

下水道整備に関しては上下水道課

0287-84-0411、水質調査に  
関しては環境課 0287-83-1  
20までお問い合わせください。



市民による河川の清掃活動。



上／閉所式であいさつする大谷市長。

下／被災者に対して黙祷を捧げました。

仮設住宅で友達になつた中山美

# 県唯一の仮設住宅で閉所式

千年に一度といわれる大きな揺れを観測した東日本大震災の被害により、那須烏山市でも県内で最も多い66世帯の家屋が全壊し、土砂崩れで2名の命が奪われるなど、大惨事になりました。この震災の被害に伴い、県内で唯一建てられた那須烏山市岩子の仮設住宅が5月8日(水)に閉所しました。4月28日(日)には、同所で閉所式が行われ、それまで支援していた多くのボラ

ンティアや岩子仮設住宅の入居者約100人が集まりました。岩子の仮設住宅は、震災から約2ヵ月後の平成23年5月9日(月)に20世帯67人が入所しましたが、入居者全員がいずれも、新居を再建したり賃貸物件を借りたりして、新たな生活を見つけることができたため、2年で閉所することになりました。

閉所式は、一部構成になつてお

り、第一部の式典では、まず、被災者に対し、全員で黙祷を捧げました。その後、大谷範雄市長から「2年間でここまで復興でき、今日の閉所式を迎えたことはとても嬉しい」と挨拶。来賓の挨拶に続い、入居者代表の曾根原勉さんが

「今回、入居者全員が新たな出発をすることができて良かった。本当にみなさんには感謝している。これからは、いかに絆の強い地域社会をつくるかが重要だと思う」とお礼の気持ちを述べました。

続く第二部では、「復興岩子ありがとうございました感謝の集い」と題する交流会が行われました。ボランティアによる炊き出しや、手作りのやきそば等の模擬店の他、アトラクションを通して、ボランティアと入居者がふれあいました。アトラクションには、オリオリゴスペルクワイヤーや那須烏山市ふるさと太鼓保存会、荒川小学校の児童等が駆けつけ、歌や太鼓を披露しました。

ンティアや岩子仮設住宅の入居者約100人が集まりました。

岩子の仮設住宅は、震災から約2年間でここまで復興でき、今日の閉所式を迎えたことはとても嬉しい」と挨拶。来賓の挨拶に続い、入居者代表の曾根原勉さんが

織ちゃんと谷田花月ちゃんは、「今は、仮設住宅ではなくそれぞれ離れて、新しい生活をスタートしているけれど、ここで出会った友達とは、好きな音楽アーティストのコンサートに一緒に行く程の仲になつた」と声をそろえて言いました。

この感謝の集いを主催した災害ボランティアチーム龍JINの小堀道和代表は、「今までこの仮設住宅での生活で育まれた絆をみんなで大きく、そして強くしていくたい。今後、同じようなことが起きて、も、この“絆”があれば乗り越えられる」と話していました。

仮設住宅は、5月8日(水)に入居者が完全に転居し、13日(月)から撤去作業が開始され今後、元の運動場に戻される予定です。カタチとして仮設住宅が無くなりますが、ここで育まれた“絆”はいつまでも語り継がれていくことでしょう。

左／交流し合う会場。  
右／合唱をする荒川小学校の児童たち。

①神流会



②西川親睦会



③那須烏山市横枕青年団



④街に賑わいを興す会



⑤いきいきライフ積翠塾



市では、5人以上で構成するボランティア団体やNPO法人等が、地域の資源を活用し、住みよい環境、活力ある地域社会づくりに新たに取り組む場合、「まちづくり団体支援事業」として、活動を支援しています。

これは、市民の連帯強化、地域振興を目的とする地域振興基金の運用益を活用して、行政と市民の協働によるまちづくりを進めるものです。支援の内容は、地域課題を解決するための事業に必要な経費の補助や、側面的な支援等です。

平成24年度に採択となった6団体の取組みを紹介します。

### ■採択団体一覧

団体名・代表者	事業名・取組内容等
① 神流会 星雅信代表	<b>江川を愛する会(I LOVE River)</b> 江川の環境美化やイベントを通して、地域の活性化や親睦、若手育成、江川に親しんでもらうことなどを目指した活動を実施しました。 <b>【主な内容】</b> 鯉のぼりをあげる、イルミネーション実施、河川清掃・除草作業
② 西川親睦会 越雲深雪代表	<b>舞踊でまちづくり事業</b> 舞踊を通じ、「子どもと大人のつながり」「古い生活の良さを知ってもらう」「ボランティア担い手の育成」を目的とした活動を実施しました。 <b>【主な内容】</b> チャリティー・山あげ祭・敬老会等への参加、盆踊り等の開催、老人ホーム訪問、中国公演
③ 那須烏山市横枕青年団 生魚貴宏代表	<b>地域住民との交流の場の提供まちづくり事業</b> イベント等により地域住民との交流の場を提供し、地元意識の向上や知名度アップ、若者の育成、環境美化等を図る活動を実施しました。 <b>【主な内容】</b> フリーマーケット、ほたる祭り、花火大会、焼き芋祭り、環境美化活動
④ 街に賑わいを興す会 小川二三雄代表	<b>和服、ゆかたを普及する会</b> 着物の似合う街「なすからすやま」を旗印に、和服の良さを広め、まちおこしにつなげていく活動を実施しました。 <b>【主な内容】</b> 山あげ祭案内、ゆかた姿フォトコンテスト(いかんべ祭)、雛巡りへの参加
⑤ いきいきライフ積翠塾 内藤正敏代表	<b>資産活性総合活用研究事業</b> 地域資源を活用した地域活性・再生・振興の課題提案、事業推進に関心を持っている人との連携や協働事業を実施しました。 <b>【主な内容】</b> 那珂川流域風土記シリーズ(Ⅲ)出版、環境整備・保全と環境ビジネスの研究
⑥ 石ヶ入りの自然を愛する会 大金文雄代表	<b>石ヶ入りの自然復元活動</b> 荒廃した山林・耕作放棄地を整備し、地域住民の憩いの場を作る活動を実施しました。 <b>【主な内容】</b> 東屋建設、里山整備、散策道整備、花木植栽、生き物調査、彼岸花の群生観賞、ジャム作り、ミニ棚田復元

た。 労で、旭日双光章を受章しました。

2013年春の叙勲が、「みどりの日」の4月29日(月)に発表され、中央2丁目の丸山眞一さんと、食の安全安心推進功労と社会教育(青少年教育を含む)推進功労で、旭日双光章を受章しました。



多くの分野で活躍された丸山さん。

## 丸山眞一さん(中央2丁目) 春の叙勲で旭日双光章受章

一方、青少年健全育成分野でも、日本キャンプ協会・日本レクリエーション協会上級指導者として活躍。昭和54年には国の「青少年指導者海外派遣事業」に本県から初めて派遣され、欧州各国の活動を視察後、国の青少年健全育成施策推進にかかる年などしました。

丸山さんは、これまで、南那須地区食品衛生協会や同地区公衆衛生協会の会長を歴任。平成14年から今年3月まで栃木県食品衛生協会副会長を務めるなど、長年にわたり食品衛生の分野で尽力されました。

来年10月に開催される第27回全国健康福祉祭とちぎ大会(愛称・ねんりんピック栃木2014)に向け、5月8日(水)、保健福祉センターで市実行委員会設立総会が開かれました。

同大会(厚生労働省・栃木県・一般財団法人長寿社会開発センター主催)は、60歳以上の方々を中心とする健康と福祉の祭典です。「咲かせよう!長寿の花を栃木路で」をテーマに、来年10月4日(土)から7日(火)まで、スポーツ・文化の交流大会24種目が実施されます。本市では、俳句交流大会が10月5日(日)に開かれます。

なお、本大会に先立ち、今年10月6日(日)には、烏山城カントリークラブで俳句交流リハーサル大会を開催します。当日は、記念講演や入選者の表彰等を行います。募集句の受付は7月1日(月)(当日消印有効)まで。詳しくは、事務局(健康福祉課内) ☎ 0287-88-17115までお問い合わせください。



⑥石ヶ入りの自然を愛する会



大会マスコット「とちまるくん」が南那須庁舎でPR。



関係者による設立総会。

## ねんりんピック栃木2014 俳句大会に向け 実行委員会発足

10月6日(日)に交流リハーサル大会